



太良町

# 議会だより

佐賀県太良町議会  
TEL (09546) 0 3 1 1

編集 議会広報編集委員会

印刷 松浦印刷株式会社



老人福祉ソフトボール大会で老人パワーを発揮

# 創刊50号発行記念号

# 四億七千八百万円追加補正

## (町長の提案理由)

平成五年第四回太良町議会(定例第三回)は九月二十日召集され、二十日から二十八日までの九日間の会期を決定した。

開会につづいて、町長から台風及び豪雨による被害の報告が行われた。

町長から十一議案が一括上程され、提案理由が説明された。全議案を満場一致で可決して閉会した。

今議会では、郵政事業の現行経営形態堅持を求める意見書、国民の祝日「海の日」制定を求める意見書の提出についても可決された。

◎太良町母子家庭等医療費の助成に関する条例の制定

母子家庭と重度心身障害者については、現在太良町母子家庭及び重度心身障害者の医療費の助成に関する条例を適用しているが、今回前記の条例を廃止し改めて母子家庭と父子家庭及び一人暮らしの寡婦を加え、医療

費を助成するための条例の制定である。

なおこの条例の適用は、平成五年十月一日から。

◎太良町重度心身障害者の医療費の助成に関する条例の制定

この条例は、母子家庭と重度心身障害者の医療費の助成については、太良町母子家庭及び重度心身障害者の医療費の助成に関する条例を適用しているが、

今年十月一日から父子及び一人暮らし寡婦も医療費の助成対象者になるので、母子と父子及び一人暮らしの寡婦医療を一つの条例に、重度心身障害者の医療費を別に設けて、条例を制定したものの。

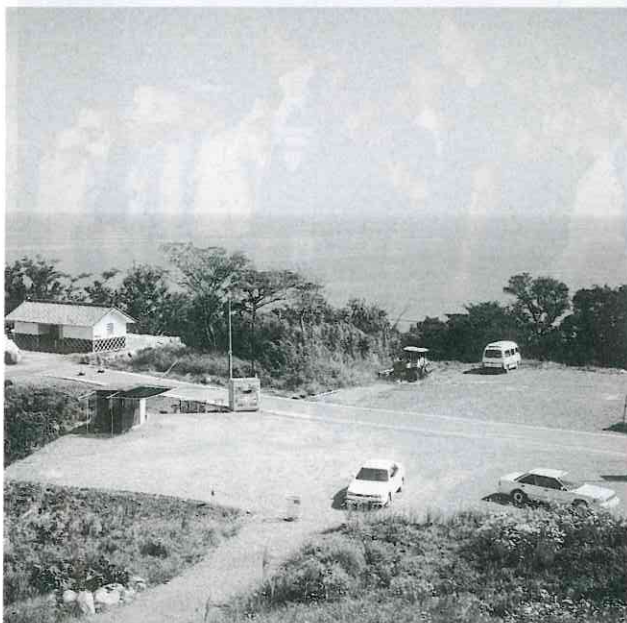
◎町税の徴収等の特例に関する条例の一部改正

事務の電算化や町規則等の改正に伴い条例の一部を改正するもの。

◎町文化振興基金に関する条例の一部改正

六月議会で制定された太良町文化振興基金条例中の、基金の管理、委任規定を一部改正するもの。

◎平成五年度太良町営住宅(畑田団地)新築工事請負契約の締結



竹崎城址周辺整備事業として実施の駐車場等

太良町大字多良字川良瀬地内に、第二種住宅中層耐火四階建十二戸を施工するもので、指名競争入札の結果、一億五千九百十三万五千円で、株式会社栗山組が落札したので、議会の議決を求めるもの。

◎町営土地改良事業の計画の変更

団体営土地改良総合整備事業片峰地区の計画を、広域農道の実施計画等により変更する。

◎太良町内の字の区域の変更

団体営土地改良総合整備事業片峰地区のほ場整備の実施に伴

い、字界を道路・水路で決定したので、字の区域の変更が必要となったため。

◎平成四年度町立太良病院事業会計決算の認定

審査を決算特別委員会に閉会中の審査を付託する。

◎平成四年度太良町水道事業会計決算の認定

決算特別委員会に閉会中の審査を付託する。

◎平成五年度太良町一般会計補正予算(第四号)

五年発生災害復旧事業、補助事業等が追加確定したものと及び緊急で重要な事業について四億七千八百三十五万四千円の追加補正

補正予算の主な事業は別表のとおり。

◎平成五年度太良町老人保健特別会計補正予算(第一号)

平成四年度医療給付費等の精算に伴う国・県支出金及び支払基金の償還金の補正。

◎平成五年度太良町簡易水道特別会計補正予算(第一号)

大浦港海岸環境整備事業費一千三百五十万円、国道207号線横杉地区の排水管、給水管移設工事費等百六十七万二千円の補正をするもの。

一般会計補正予算の主なもの

(単位：千円)

事業名	既決予算額	補正額	合計	摘要
大浦幼稚園施設整備費補助金	0	13,400	13,400	国・県補助対象外面積96㎡(全体面積321㎡、全体事業費49,440)
竹崎城址周辺整備事業	30,000	45,000	75,000	海岸道路新設・舗装工事駐車場整備路線変更に伴う補正
高品質(マルチ)みかん対策事業補助金	0	8,876	8,876	太良町農協…8,467 太良町果協…409
ふるさと農道整備事業	0	54,300	54,300	中尾～大野線 L=1,000m、B=6m
農道原材料支給	20,000	10,000	30,000	L=1,000m B=2.5m
5年災農地等災害復旧事業費	0	152,640	152,640	農地 88ヶ所 施設 48ヶ所 計 136ヶ所
5年災林道災害復旧事業費	0	13,305	13,305	3路線 9ヶ所
5年災道路橋梁等補助災害復旧事業費	0	137,557	137,557	道路等 49ヶ所

平成五年度 各会計予算現計表

9月末現在

(単位：千円)

会計名	既決予算額	補正額	合計
一般会計	4,446,083	478,354	4,924,437
山林特別会計	26,700	—	26,700
普通会計合計	4,472,783	478,354	4,951,137
老人保健特別会計	962,800	1,957	964,757
国民健康保険特別会計	1,465,000	—	1,465,000
太良病院事業会計	670,604	—	670,604
簡易水道特別会計	98,000	13,500	111,500
水道事業会計	79,416	—	79,416
総計	7,748,603	493,811	8,242,414

- 7・1 議長研修(東京)2日まで
- 7・5 国道二〇七号線改良促進期成同盟会
- 7・8 議会だより編集委員会
- 7・15 例月出納検査
- 7・19 中山キャンプ場山開き
- 7・21 太良町学童水泳大会
- 7・22 議会だより編集委員会
- 7・22 県議長会役員会
- 7・22 佐賀県西部地区開発推進協議会総会
- 7・23 太良町老人保健福祉計画策定委員会
- 7・28 武雄・鹿島政経セミナー
- 8・6 郡議長・局長会
- 8・6 太良地区警察官派出所駐在所連絡協議会
- 8・16 消防夏季点検
- 8・17 知事・市町村議長懇話会
- 8・18 杵藤地区広域市町村圏組合全員協議会
- 8・19 例月出納検査
- 8・19 藤津・鹿島地区家畜診療所運営委員会
- 8・20 多良岳地区基幹農道太良町建設促進協議会
- 8・20 塩田町議会より来訪

議会のあゆみ  
(七月～九月)

- 8・24 総務常任委員会
- 8・26 杵藤地区広域市町村圏組合定例議会
- 8・27 鹿島・藤津地区衛生施設組合議会
- 8・29 消防操法大会
- 9・2 正・副議長研修会
- 9・7 郡議長会ソフトボール大会
- 9・9 総務常任委員会協議会
- 9・14 議会運営委員会
- 9・17 武雄・鹿島政経セミナー
- 9・20 九月定例議会招集
- 9・24 本会議(第二日目)
- 9・27 本会議(第三日目)
- 9・28 本会議(第四日目)
- 9・29 建設常任委員協議会

編集室より

「議会だより」も、昭和五十六年八月一日付で、創刊号を発行して、今回で五十号を出すことになりました。

素人ばかりの編集委員が、一生懸命執筆してまいりました。これから先も、より良い「議会だより」を作成するつもりです。

町民の皆様の御愛読をよろしくお願ひ致します。

# 一 般 質 問

(三議員登壇)

## 意欲ある畜産家に

### 行政の手助けを

山口 光 章

問 太良町の農業は、みかん、米、畜産、特にみかんは、本町を代表する特産物であるが、畜産もこれに並ぶ生産額をあげている。

しかし本町の主軸である農業の後継者は、年々減る一方で、後継者の不足というものは、全国的な悩みの種であり、その対応策には、若者に、魅力ある農業の形態に力を注ぎ、この先々をどのような方法でそれをクリアしていくかが重大な課題になっている。

みかん生産の場合、若い後継者の集まり「シトラス会」などは自力で他県に負けないみかん産業の向上に務め、個人個人が大変努力し研究して農業経営の合理化を図り不況

の中での生き残りを前向きに考え活動している姿はみかん産業を担う若者として、太良町にはなくてはならない財産だろうし、農業離れを阻止する役目も十分に果している。

畜産を例にとってみても、家畜の改良、増殖、育成牧場の整備、そして畜舎等の基盤整備、畜産経営の改善に努力をしている。

本町でも、牛の角を除角して、連動スタンション設置による規模の拡大を図っている畜産経営者も数名いる。

スタンション飼育というのは、牛の飼料の給与法であり、これを使用する事により使用前と同じ床面積の牛舎での増頭飼育を可能にしている。

増頭しても、同じ労力で、飼養管理に十分対応でき今までの群管理から効率のよい個体管理ができるようになったとの事である。

しかし、この場合運動場、休憩場の設置が必要となるが、運動場での運動と休憩で、牛のストレスも解消され、畜舎内の、ふんの処理に要する労力を減らす事ができ、敷料の取りかえ回数も削減も可能となり良い結果が出ている。

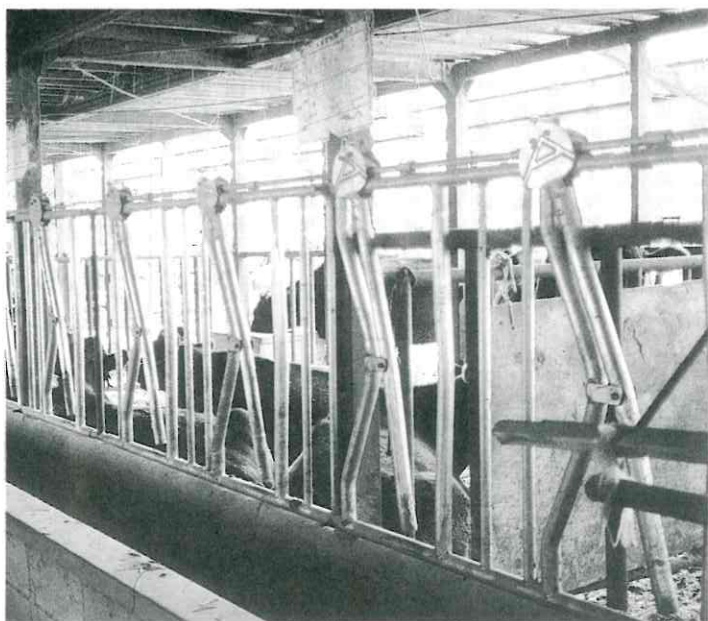
経営の成果として多頭飼育と個体管理を、容易にする効果と、畜舎構造の工夫による多頭化、管理作業の省力化、底コスト化で、和牛繁殖経営を安定させるために工夫し研究、努力をしている。

そこで本町では、こういう活動意欲のある畜産家に励ます意味での後押し的な手助けを考えるべきではないか。

本町にも色々な畜産家に對

しての事業があるが、畜産家の前向きな活動意欲を考えて検討してもらいたい。

町長 導入牛については、高齢者に対しての牛の貸付け、多頭化飼育農家には、国の家畜導入事業資金供給事業及び、県の肉用牛資金供給対策事業等で利息の相当分を補助しているし、畜産に対してはまだまだ手薄いぞと言われないぐらいいは、やっているつもりだ。



和牛繁殖経営の安定の為のスタンション給与法

連動スタンション設置などは、町が助成するというよりも無利子の畜産振興資金等を活用して買うべきと思う。

四頭分で五万五千円程度のものであるから、無利子の資金を活用してもらえればということも、助成をすることは今のところ考えていない。

問 スタンションだけの取り付け工事費ぐらいは町として出せないものか。

和牛繁殖の経営に、大変結果としてよい成果が出ている。活動意欲的に現実的に行動をおこしているので農協などと協議をした上で何かいい策を考えてみるべきではないか。

町長 スタンチオンが決して高い値段じゃないということでは失礼に当たるが、その程度のこととは他に頼らず自力でやってもらいたいと思う。

# 新幹線建設による長崎本線 廃止反対に町民の結集を

坂井 達馬

問 新幹線建設による長崎本線廃止は太良町を陸の孤島にする政策である。

商工会・観光協会・旅館組合・カニ組合などのご協力での発展の途にある観光事業すら脅かされる懸念がある。

太良町の生き残りをかけた戦いに発展させねばと思うがまず町長の決意を聞きたい。

新幹線を建設するには何百億何千億の経費が必要になるが新幹線の恩恵を受けようが受けまいが、県民が税金という名目で負担を強いられることは間違いない。

昨年三月に策定した新総合開発基本計画の中で平成十三年の目標人口を一万三千人と計画されている。

人間は便利なところへ移動したいのが常である。

新幹線建設によって福岡や長崎への人口流失が心配される。

また、人口がふえる福岡や長崎に水資源が独占される懸念すらある。

更に有明海の塩分濃度にも影響が出て漁業者の生活も脅かされる可能性が考えられる。次に一番心配される通学の問題で提起したい。

平成五年度の入学発表時の町内高校生の生徒数を調べてみると多良校区で二百七十一名となっている。この通学に必要な費用の概算をバスと電車で比較するとバスが月に五百八十八万五千五百二十円と

大体の計算になる。電車が月に一百九十六万五千二百四十円になる。

これを年間で見るとバスが七千六十二万六千円程度、電車が二千三百五十八万二千円程度で年間の差で四千七百万円程度の差になる。

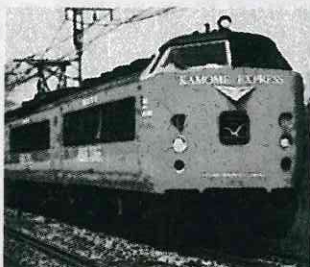
大浦校区では三百九十名の通学生がいる。これを前のように比較すると、年間バスが九千七百五十八万二千円程度、電車が三千六百六十八万

六千円程度となり、その差は六千八百九十九万程度になる。また若年労働者の流出が加速することも考えられるし、

太良町には何のメリットもない。長崎線を絶対守るといふ立場から町長の総合的な答弁を求めたい。

町長 福岡・長崎・佐賀、三県の長崎新幹線建設期成会の会長は佐賀県知事である。

本会議では言えないので全員協議会で訴えた通り行政の



## JR 長崎本線の廃止反対！

知ってますか...？ 新幹線長崎ルート...？  
守りましょう！ みんなの足 長崎本線！！

JR 長崎本線存続期成会

J R長崎本線の廃止は絶対反対

長である町長が知事と対決ばかりでは別な意味で町政にマイナスになるようでは町民に対して申し訳ないと色々考えながら精いっぱい戦う限度はどこであろうかと言ふことを議員諸公に話したところ、それでは、議会挙げて運動を展開して行くことを決定していただき大変強く感じているのが現在の心境である。

議員質問の中で意見をうけたが、まさにその通りだと思うが、それ以上に昭和六年から続いている長崎本線のレールが消えたら、まさに陸の孤島になり「列車も通らん太良か、鹿島か」と言われることは目に見えている。

私も一生懸命やるので御支援をお願いしたい。

問 太良町だけでは迫力がないので、有明町・白石町・鹿島市、できれば長崎県側の小長井町・高来町・諫早市まで含めて総決起大会でもと云う思いがあるがどうか。

町長 議会の運動として他町・市にも広がっていくことも話あわれているので、そのようにすることが、よりベターではないかと考えている。

# 異常気象による農業災害の 救済対策を考えよ

山崎 貞雄



重なる災害により大打撃をうけた水稻

問 低温、長雨等による日照不足、相次ぐ台風の影響などにより気象大災害が発生し、米の緊急輸入の問題、一〇万ヘクタールに及ぶ水田の減反復元問題、食糧庁の米集荷緊急

会議など、国の食料自給確保に赤信号が点滅している。本町も早生約一〇〇町、中生等約二四二町余りが作付されているが、刈り取り中の早生は、天候不純のため軟弱徒

長、病虫害の多発、相次ぐ台風による被害で、五〇%から六〇%の減収が見込まれている。

中生種の生育も、総体的に分けつが少なく、穂数も小さく十分な実入りができいないなど、減収は確実と予想されている。

ミカンは開花期の低温により、開花が一週間位おくれれてスタートとなったが、特に六月二日の強風は、今年産ミカンの致命的な風傷となった。

その後ミカンにとつては最悪の気象が続き、厳しい販売を予想した農家は、懸命な肥培管理を続けたが、品質低下は避けられない状況になっており、基準に満たないミカンが多く発生して、有利な販売が出来るのか不安である。

二年前の台風一七号・一九号の被害、昨年産ミカン価格の低落など、農家経済は難しい局面に達している。

今後の被害の状況を見ながら、できる限りの救済策を進め、農家経済を支えるべきではないか。

町長 長雨、日照不足により大

打撃をうけた現況にあること、議員指摘のとおりである。これを乗り切るために非常に苦慮している。

融資にたいする制度や、他

いろいろな考えているが、借入金で切り抜けることが果して、行政の最上の手段であろうかと考えて、苦慮をしている。

知事が発表した、被害農家に無利子融資、県単独の農業災害対策、このような制度を、実施することになっている。

これには指定があるが、県がやれば町もやるということ、で、今度の農業災害に対処したいと考えている。

問 新聞報道では、被災農家救済のため、制度資金の償還条件緩和を進める、と報道されているが、行政支援により、農家の生産体制が保たれるよう陳情を続けるべきと思うが、どうか。

又九月二十二日、食糧庁は今年産米の他用途米の特例措置を発表した。先の台風一七号・一九号災害に対しても、他用途米の減免措置を発令したが、行政、農協の対応が十分でなく、被災農家は、高い玄米を買い、他用途米に出荷

した者があった。

今年太良町が、三〇%以上の減収率になれば、六〇%の他用途米が減免される措置であるので、万全を期すべきであるが、どうか。

町長 償還条件緩和などの制度はよいことだし、極力、制度にのるよう陳情をしながら進めたい。他用途米は、通達はきていないが、おくれないうにに対応する。

県が実施する、被災農家対策は緊急を要するときは、予備費の範囲内で考えながら、対応したい。

## 編集委員会

- 委員長 中村 智利
- 副委員長 坂井 達馬
- 委員 松尾 健作
- 委員 田崎 誓
- 委員 木下 繁義
- 委員 坂口 久信
- 委員 山口 光章